

1 年次教科「産業」における言語活動

～総合学科における国語科のカリキュラム作成の視点から～

国語科 塗田佳枝

学校設定教科「産業」の1年次科目「産業社会と人間」「キャリアデザイン」では、多くの言語活動が行われている。それらの活動に必要な力は、「国語総合」の学習指導要領において、特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導事項とほぼ重なる。年度末のアンケートでは意見表明、レポート作成や発表の力がついたとの自己評価が増えているが、特に論理的な表現力の育成については統一かつ継続的な指導が必要であり、教材や指導法の蓄積がある国語科で行うのが効果的である。

キーワード：「産業社会と人間」「キャリアデザイン」 総合学科における国語科 論理的表現能力

1. はじめに — 問題の所在 —

本校では、学校設定教科として「産業」がある。「産業」は勤労観・職業観を確立させるとともに自らのキャリア形成を考えさせる本校のキャリア教育の中心となる教科であり、1年次では「産業社会と人間（以下『産社』）」「キャリアデザイン（以下『CD』）」を置いている。

「産業」を構成する1科目である「産社」では従来から「クラス単位・グループ単位の活動を数多く行い、単元ごとに振り返り・個人の発表やグループでのポスターセッションなどを実施」しているが⁽¹⁾、本年度はインタビューや話し合いなどの様々な言語活動が例年より多く行われた。これは意図して設定したわけではなく、新たな単元を導入したところ、その目標を達成するために言語活動が必要になったのである。言語活動を行う具体的な手順は国語科の稿者が主に考えたが、「産社」は様々な教科の教員によるチームティーチングであるため、全員が国語科の教員のように指導することは難しい。そこで、「産社」で行う言語活動について国語科と連携して指導できないかと考えるようになった。

平成21年告示の高等学校学習指導要領では、各教科における「言語活動の充実」が示され、ことばの力は国語科だけでなく全教育課程で育成するものとされた。田中孝一は、「国語科の立場から、他教科に生かす国語力を考える場合、国語科は、国語科で行うべきことを明確にし、他教科等における学習活動に生かすことのできる基礎的な国語力をしっかりと育成する役割を果たすことが重要となる」と述べている⁽²⁾。総合学科である本校では2年次から選択科目が始まるが、他教科でもレポート作成や

聞き書き、発表等の言語活動が数多く行われおり、3年次には「卒業研究」もある。一方、本校の国語科の必修科目は1年次の「国語総合」だけである。したがって、「国語総合」において他教科で生かす「基礎的な国語力」を身につけさせることは、本校全体の教育効果を高めるうえでも重要になってくる。

そこで「基礎的な国語力」を考えるために、本稿ではまず1年次科目「産社」「CD」で行われている言語活動で必要となることばの力を整理する。次にワークシートの記述や自己評価から生徒の実態や変容を明らかにし、総合学科における国語科のあり方について考えたい。

2. 1年次「産業」科目の概要

2.1. 「産業社会と人間」の概要

(1) 科目の概要

総合学科の高等学校において、自己の形成と将来の職業生活に必要な態度や能力を育成するために入学年次に履修することが定められている科目である。本校では、自己理解、職業理解、社会理解、2年次以降の履修計画作成を大きな柱とし、年次の担任・副担任計8名で展開している。平成22年度までは本校開発科目である「産業理解」とあわせて4単位で実施していたが、新教育課程が始まった平成23年度より「産社」のみの2単位となり、週1回2時間連続で展開している。例年行っている単元としては、実施頃に入学式翌日から3泊4日で行うコミュニケーションキャンプ、2年次以降の時間割を決めるための科目ガイダンス、本校の農場を利用した野菜作り、同じ附属である特別支援学校との交流会、親大学の筑波

大学見学、時間割選択、ライフプラン作成などがある。

(2) 本年度の特徴

本年度は「自ら立ち、生きていく思想的基盤をもつ人間の育成」を主目標とし、テーマとして「出会い」を掲げた⁽³⁾。年間計画は資料①で示している。この中で新たに取入れたのが、「プロジェクト学習」である。

前述の通り、教育課程の改組によって、産業や社会全般に対する見識を深めることを目指した「産業理解」2単位分がなくなった。「産業理解」の内容を2単位になった「産社」で行うか、後発科目である「キャリアデザイン」に組み込むかは担当する年次によって異なるのが現状である。本年度は学期に1度のプロジェクト学習を導入し、1学期を「産業理解」の内容を含む社会理解にあてた。2学期の主題は自己理解、3学期は他者理解である。各学期の目標と主な活動を表1にまとめた。

表1 プロジェクト学習の目標と活動

	目 標	主な活動
1 学 期	現場を見ることで社会や職業に対する知識を深め、視野を広げる。	自分たちの興味のある地域の企業や団体を取材し、社会の中の「つながり」を知る。
2 学 期	時間割決定を前に、根源的な問いに向かい、自己を追究する。	様々な人生観を聞き、班で話し合い、「生きること」について考える。
3 学 期	自らの考えを深化拡充するとともに他者の意見を尊重し、話し合う楽しさを知る。	正解のないテーマについて、参観した大人にも意見を聞きながら話し合う。

活動単位は、1学期はコミュニケーションキャンプと同じ10名の班、2学期はクラスごとの4~5名の班、3学期はクラス混合の5~6名の班である。まとめとして、発表会やポスター作成、文章にまとめるふりかえりを行った。

2.2 「キャリアデザイン」の概要

(1) 科目の概要

学ぶ楽しさを実感させるとともに、総合学科における学びのスキルを獲得させ、中高接続を円滑に行うことを目指して、平成23年度から始まった2単位の学校設定科目である⁽⁴⁾。担任団8名に年次外4名を加えた12名の教員で、クラス混合の13~14名を担当するゼミ式の授業で、隔週土曜日に実施されている。目標は「本校での学びを

進めるための基礎力（学びのスキル）」「場面に応じた行動を取る能力（ソーシャル・スキル）」「自己の生活をコントロールできる能力（マネジメント・スキル）」の三点の育成であり、「知る」「考える」「発表する」の各ステップを必ず授業に入れることとされた⁽⁵⁾。

平成23、24年度は、担当教員が得意分野に関する講座を計画し、生徒は講義やフィールドワークの後、レポート作成と発表を行う形態で行われた。講座は1学期完結で、生徒は異なる講座を学期ごとに選択する。

(2) 本年度の特徴

本年度は、2年次から始まる選択科目や3年次の「卒業研究」で必要となる調査の基礎を学ばせることに主眼を置いた。具体的には前年度までの講座制を廃止し、テーマ設定から調査・まとめまで1年間を通じて取り組ませた。前述の3ステップは、学期ごとに1学期「知る」、2学期「考える」、3学期「伝える」と配置した。資料②に年間計画を示している。調査は2学期末で一度終了させ、レポート作成と発表を行わせる。3学期は班と担当者を替え、自分の調査内容や分野を知らない、または興味がない生徒や教員にわかりやすく伝えることを目指して、2学期の内容を改良させた。実際には、冬休みを利用して新しいテーマに取り組んだ者もいた。

なお両科目の評価とも、年次全体の平均値が5段階中4.0になるように担当者間で調整している。

3. 「産業社会と人間」「キャリアデザイン」における言語活動

3.1. ことばの力の育成に関して

本校の「産社」「CD」の言語活動を分析する前に、現行の学習指導要領で求められていることばの力や言語活動をまとめておく。

(1) 平成20年中教審答申

平成20年の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」では、学習指導要領改訂の基本的な考え方として思考力・判断力・表現力等の育成が示され、各教科で「体験から感じ取ったことを表現する」「情報を分析・評価し、論述する」など6つの学習活動を行うことが不可欠とされた。さらに、これらの活動の基盤として言語を位置づけ、国語科だけでなく各教科で記録・要約・説明・論述等の言語活動を発達段階に応じて行うことを提唱している。

上記の活動は、平成18年から19年にかけて行われた

言語力育成協力者会議が作成した「言語力育成に関する整理用一覧表」の5分類（感受・表現、理解・伝達、解釈・説明、評価・論述、討論・協同）とほぼ一致する（資料③）。異なるのは、5つ目の課題解決の活動が「評価・論述」と「討論・協同」の中に含まれる点である。

（2）「国語総合」における指導事項

平成21年告示の高等学校学習指導要領「国語総合」の3領域であるA「話すこと・聞くこと」、B「書くこと」、C「読むこと」で指導事項としてあがっているのは以下の通りである。なお、これらの指導事項は、指導によって育成されることばの力と捉えることもできる。

〔A 話すこと・聞くこと〕

- ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。
- イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。
- ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。
- エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

〔B 書くこと〕

- ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。
- イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。
- ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。
- エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

〔C 読むこと〕

- ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。
- イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。

エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。

オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。

このうち同じ表現領域である「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の事項は、目的に応じた表現（AイとBア）、論理的な表現（AアとBイ）、評価の活用（AエとBエ）が相互に関連している。異なるのは音声言語と文字言語というそれぞれの特徴から導き出された協同性（Aウ）と適切な表現（Bウ）である。

3.2. 「産業社会と人間」における言語活動

本年度実施した「産社」で言語活動が多かった単元を抽出し、それらの言語活動で身につく力を前述の「国語総合」の指導事項と照らし合わせて分類した（表2）。なお「産社」で読む活動は行っていないため、「読むこと」の領域は考慮していない。

表2を見ると、今回行った「産社」の言語活動は「国語総合」の表現領域の指導事項をほぼ網羅していることがわかる。また国語科の単元学習のように、1つの単元でA「話すこと・聞くこと」、B「書くこと」双方の領域の様々な言語活動が行われていることも特徴としてあげられる。取り上げた単元以外にも、冒頭で述べたように、活動を通して考えたこと・学んだことを記述するふりかえりを必ず行っている。このように、「産社」で表現活動が多いのはなぜか。

その理由について、前述の「言語力育成に関する整理用一覧表（以下、一覧表）」から考えてみたい。一覧表は5分類に基づく「国語の技能」と、「論理的思考能力の育成にかかわる教科等」及び「感性・情緒、他者とのコミュニケーションの力にかかわる教科等」に関する活動例によって構成されているが、「産社」は表の右側の「感性・情緒、他者とのコミュニケーションの力」に関する活動例に該当するものが多い。例えば、写真を使った報告は「理解・伝達」の「事実を正確に説明・報告する活動」、毎回書くふりかえりは「評価・論述」の「体験活動を振り返り、そこから学んだことを記述する活動」、2・3学期に行ったプロジェクト学習②③は「討論・協同」の「討論・議論などを通じて、意見の異なる人と協同的に議論する態度や、意見の対立を解決する方法を身に付けるのに必要な活動」にあたる。「論理的思考力」に関係がある活動は、菜園の観察記録や職場体験のレポート作成のみ

表2 「産業社会と人間」における言語活動一覧

No	単元	言語活動	形態	「国総」 A(話す)				B(書く)			
				ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
1 0	コミュニケーション キャンプ	マウンテンバイクの道中でインタビューする	班		○						
		印象に残った活動を班で話し合う	班	○		○					
		模造紙にキャンプでの「出会い」をまとめる	一部					○		○	
		写真を使って発表する	一部		○						
		他の班の発表を聞く	個人		○		△				
1 2 4 6 13	菜園づくり 収穫祭	観察記録をつける	個人							○	
		菜園と1学期の班活動についてふりかえり、発表する	班	○							
		他の班の発表を聞く	個人		○		△				
3 5 7	プロジェクト学習 ① (社会を知る)	取材先を決め、電話で訪問の依頼をする	班		○						
		実際にインタビュー活動を行う	班		○						
		お礼状を作成する	一部					○			
		模造紙に取材の様子をまとめる	一部					○		○	
		写真を使ってインタビュー内容を発表する	一部		○						
		他の班の発表を聞く	個人		○		△				
14	職場体験	職場体験の内容と考えたことをレポートにまとめる	個人						○	○	
		お礼状を作成する	個人					○			
II 10 11 12	プロジェクト学習 ② (自分を知る)	自分の身近な人にインタビューを行う	個人		○						
		学校周辺の人々に街頭インタビューを行う	班		○						
		インタビュー結果を元に「生きる意味」について話し合う	班	○		○	○				
		話し合いの結果を報告する	一部		○						
		他の班の発表を聞く	個人		○		△				
		「生きるということ」という題で文章にまとめる	個人					○		△	
III 2 3	プロジェクト学習 ③ (他者を知る)	班で決めたテーマについて、参観に来た大人にも意見を聞きながら話し合う	班	○		○	○				
		話し合いをふりかえり、自分の考えの変化や異なるものの見方等について文章にまとめる	個人					○		△	
4 5 6	ライフプラン作成、発表	これからどのように生きていくかを2000字にまとめる	個人					○		○	
		ライフプランをクラスの前で発表する	個人		○						
		他の人の発表を聞く	個人		○		△				
8 9 10	研究大会 (ポスター作成)	「自分にとっての『産社』」を話し合う	班	○		○					
		掲示資料を作成する	班					○		○	
11	年次討論会	年次全体で授業の意味について討論会を行う	個人	○	○	○					

* 「国語総合」の指導事項は[Aア:論理的な表現 イ:目的に応じた表現 ウ:協同性 エ:評価の活用] [Bア:目的に応じた表現 イ:論理的な表現 ウ:適切な表現 エ:評価の活用] である。

* 「○」「△」は、その活動における優先度を表す。

である。

「産社」で目指すべきキャリア意識の育成の根幹には、自己形成がある。「産社」では、授業者は意図していないにしても、自己を形成する側面のうち論理面より感性・情緒、コミュニケーション面が重視されていると言える。よって感性を育み、他者と関わるために不可欠な表現活動が多く設定されているのではないか。また表現活動の中で、ふりかえりは個人で行う活動である。単元を終えて学んだこと・考えたことを言語化し、学期末にはそれまでの記録を見返してまとめ直す。このように、蓄積された自らの学びを次に活かしていくという点でも、自己形成に寄与していると考えられる。

しかしながら、表現活動が多い中でもA・Bのエにあたる評価に関する活動は少ない。特に「書くこと」に至っては全くない。国語科の授業で書く活動を行う場合、まとめとして書いた文章について交流し、考察する活動を置くのが一般的だが、「産社」の場合は書いたままか、教員のコメントが入る程度である。

3.3. 「キャリアデザイン」における言語活動

「CD」も「産社」と同様に、言語活動を抽出し、「国語総合」との対応を考えた(表3)。「CD」は主な活動が調査であるという性格上、複数の領域に渡る言語活動は見られなかった。

表3 「キャリアデザイン」における言語活動一覧

単元	言語活動	「国総」
調べる	テーマを考える	
	関連する情報を探す	Cオ
	取捨選択し、必要な情報をまとめる	Cイ
	比較・分類等によって考察する	
レポートや発表資料を作成する	レポートや発表資料の適切な体裁を知る	
	適切な表現、論理展開等につけて、調査結果をまとめる	Bイ・ウ
	適切な表現、論理展開等につけて、発表資料を作成する	Bア・イ
発表する	資料を用いて、効果的に発表する	Aイ
	聞き手の質問を受け止め、適切に答える	Aイ
	発表に対して質問や意見を持つ	Aイ・エ

また先の一覧表と関連させてみると、「産社」とは対照的に「論理的思考力の育成にかかわる教科等」の活動例に該当するものが多い。特に「理解・伝達」「解釈・説明」

「評価・論述」の各項目にそのまま該当する。

一方で「産社」と同様に、作成したレポートや発表について評価する活動は少ない。発表の場合、質疑の様子やコメントで相手に伝わっているか否かは判断できる。しかしレポートは教員による添削があればよいほうで、検印のみで終わりという場合もある。

3.4. 指導上の留意点

ここでは、本年度の「産業」で言語活動を行う際、活動を円滑に進めるために行った手立てをまとめておく。

「産社」の言語活動は、グループ単位で行うことが多い。また個人による書く活動の場合、各HR教室に分かれて担任か副担任が活動の手順を説明する。そこで、活動の流れやまとめ方のルールを記載するだけでなく、順番に行っていけば活動が進むようなワークシートを作成した。その際に注意したのが、以下の二点である。

(1) 話し合いの手順を明記する

プロジェクト学習②③は、話し合いが中心的な活動であった。それまでに行っていた話し合いは印象に残った活動や報告内容を決める収束型であったが、プロジェクト学習では答えのない拡散型の話し合いに初めて取り組むことになった。2学期のテーマは「あなたにとって『生きる』とは?」、3学期は生徒自身が考える正解のない抽象的なテーマ(例: お金、友情、恐怖、普通)である。しかし30~40の全てのグループを8名の担当者で見るとは難しい。

そこでワークシートに活動の指示と時間の目安を記しておくことにした(資料④)。各学期の活動の流れは次のようになる。

[2学期] ①個人で考える→②班で①を紹介し合う→③②を元に話し合う→④発表内容を相談する

[3学期] ①個人で話したいテーマを決める→②班でテーマを紹介し合い、決定する→③個人で決まったテーマについて考察→④班で話し合う

両者とも個人の活動と班の活動を分け、個人で考えたことを素材に話し合いを進めさせた。

(2) 方法・型を示す

プロジェクト学習①では、取材先を決めて電話で依頼し許可を取る必要があった。そこで、入学直後の活動ということもあり、話す項目を順番に記した手引きを作成した。訪問後インタビューをまとめる際には、係分担と発表・提出の日時、発表・ポスター・お礼状で入れる項目と注意事項を記した資料を配布した。

また時間割選択後に作成したライフプランでは、原稿

用紙に書かせる前に①高校入学以前の自分、今の自分、これからの自分に関する一問一答、② ①を使って構成を考えるという二部からなる構想シートに取り組みさせた。②では構成例も示した。

生徒の中には、書くことが苦手な者、どうまとめたらよいかわからない者もいる。そこで1年次のうちは、手順通りに進めていけば一応完成するように、型を示すことにした。3学期の最後のポスター作成は項目を示さず、生徒に任せたが、どの班も個性があり伝わりやすい作品となった。

「CD」は教員1名につき生徒13～14名のゼミ式授業であるため、比較的個別に指導しやすいが、担当者からレポートの書き方をどこまで教えるか基準がほしいとの要望が出たため、A4版8枚の共通資料を作成した。構成は次の通りである。

- ①レポートとは何か（定義、構成）
- ②レポートの種類
（ブックレポート、学習レポート）
- ③論証で大事なこと
（データ収集の方法、論証の基本的な型）
- ④知っておきたいこと
（今後の予定、作成上のルール）

3.5. 生徒の実態

各学期末のアンケート、「産社」の単元や各学期末のふりかえり、「CD」の年度末のふりかえりを取り上げ、ことばの力について生徒がどのように自己評価しているか、どのような意識が見られるかを探っていく。

(1) アンケートより

入学前から継続して実施しているアンケート⁶⁾で、「国語総合」の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に関係する項目を取り出し、考察していく（表4）。このアンケートでは15の項目について、「4：そう思う」から「1：そうは思わない」の4段階で回答させ、さらに4・3の肯定的回答をした者には、その力や姿勢が学校生活のどの活動で特に発揮されたか、あるいは身についたかを複数回答で聞いている。今回取り上げた項目は5：他者の意見の理解・尊重、6：自分の意見の表明、12：論理的な文章表現、13：論理的な発表である。なお、すべての質問項目と活動の選択数については資料⑤に示した。

取り上げた活動は表2・3で言語活動を分類した単元としたが、3学期の「研究大会」はポスター作成係と公開討論会係に分かれたため、表には加えなかった。

表4 入学前・学期末アンケート

	事前		1学期					
	項目	4.3回答	4.3回答	キャンプ	菜園	PJ①	CD	
他者尊重	5	144	128	76	34	52	27	
意見表明	6	92	97	64	30	39	27	
論述	12	55	75	8	9	13	66	
発表	13	56	46	17	12	23	22	
2学期			3学期					
	4.3回答	職場	PJ②	CD	4.3回答	PJ③	LP	CD
5	135	31	60	43	125	83	52	25
6	105	19	49	48	109	74	51	41
12	91	10	29	73	94	16	54	62
13	77	9	18	67	87	24	40	61
（実施日と回答数…事前：4月2日160名、1学期：7月19日159名、2学期：11月29日159名、3学期：2月28日159名）								
※P：プロジェクト学習、LP：ライフプラン、CD：キャリアデザイン								

事前の項目5・6からは、自分の意見を言うことより、相手の意見を聞き、受け入れることのほうができると考える生徒が多いことがわかる。その傾向は年間を通じて変わらないが、差は縮まっている。選択された活動を見ると、話し合いが中心であったプロジェクト学習②③が多いのは納得できるが、「CD」やライフプラン発表も選択されている。ここから、「CD」は調査内容（レポート）、ライフプランは原稿が手元にあるが、準備するものの有無に関わらず、皆の前で発表することを意見の表明ととらえていることがうかがえる。

また項目12・13の推移を見ると、入学前に低かった論述や発表の自己評価が大きく伸びており、活動としては調査やレポート作成、発表を行う「CD」を選択する者が多い。1学期の発表（13）の選択者が少ないのは、レポート作成のみだったからであろう。

(2) 生徒の記述より

ここでは、「産社」の各学期末や単元終了後に行っているふりかえり、及び「CD」の年度末ふりかえりの記述から、言語活動に関する生徒の意識を探っていく。なお「産社」は多様な言語活動が展開されたプロジェクト学習を中心に取り上げる。

〈産社・プロジェクト学習①〉

- a. 取材をするときにツッコミ質問ができたのでよかったです。その後のプレゼンテーションでは、コミケンのときよりも、班のみんなとも協力ができてしっかりと発表ができたのでよかったです。（女）
- b. 直接会ってインタビューすることで、インターネットや本では得られない情報や雰囲気があった。（男）
- c. 取材の後がとても大変だった。それはお礼のお手紙と掲示用模造紙の作成だった。手紙はどんな文を書いたらいいのかすごく考えたし、模造紙はどんなレイア

ウトでどう文字数をかせぐかというので苦労した。
(男)

d. [電話での依頼は：稿者注。以下同じ] 相手の顔も自分の顔も見えない声だけのコミュニケーションです。私は事前に話す内容を決めていましたが、相手にうまく伝えることができませんでした。[取材当日に迷子になった時も] 自分たちの状況や今いる場所についての確に電話で伝えることはとても大変でした。…この経験から、コミュニケーションを取る時、何よりも相手を思いやり気遣うことが大切だと身をもって学ぶことができました。(女)

(産社・プロジェクト学習②)

e. インタビューの内容をまとめるだけなので簡単だと思っていたけれど、たった4人でも考えがあまりに違いすぎてなかなかまとまらなかった。(男)

f. 発表では自分たちの班と似ている考えの班もあれば、自分では思いつかなかった新しい意見もあって、とても参考になりました。特に8班と10班の意見に感動しました。(女)

(産社・プロジェクト学習③)

g. 討論によって自分の意見を持つこと貫くことは大切だけれど、他の人の意見も取り入れてより良い考えを導く。それもあっていいのではないかと思いました。この授業があってライフプランではどんな人になりたいかを考えることができました。また普段の何気ない会話でも、人の意見に自分はこう思うと言えるようになった気がします。(女)

h. この討論では、自分の意見を主張すること、また相手の意見を聞き、それを取り入れながら話し合うことができた。一人一人が違う意見を持ち、そこで討論するといったことができるようになった。一人の人が意見を言えば、それに賛成する人もいる。また否定する人もいる。今まで私は討論をあまりしたことがなかったが、やってみると意外とおもしろいものだと気づいた。…人とのコミュニケーションをとるのが苦手な人でも話をふってみれば否定する意見や賛成する意見などがでてきた。…しかしやっぱり話すのが苦手な人は自分からは話しにくい、そのため、はじめは小さいグループから話し合ってみればいいと思った。(男)

(CD)

i. 1 つのことについて調べて、レポートに書き、PPT [パワーポイント] を使って発表することが1学期に比べて上手くなったと思います。それなりにはレポー

トの書き方・PPTでの発表の工夫(見やすいように画像を使うなど)ができたと思います。ですが、ほとんどの資料をインターネットから使用したので、インタビューなどできたら良かったです。(男)

j. PPTを作成するときに自分の伝えたいことを要約して書くのが大変だった。(女)

k. レポートやPPTをつくるときに、どうしたら他人に分かりやすいレポートがつくれるのか、どうしたら他人に情報が伝えやすいPPTがつくれるのか意識して作業したため進みが悪く苦労した。(女)

l. 自分の発表と他人の発表を比較し、改善すべき点の発見が少しずつできるようになりました。(女)

m. インターネットの情報はうそかほんとかわからない。だからテレビ番組などをチェックしたり本を実際に読んで確かめたりした。実際、友達や先生に一人一人意見を聞いてまとめるのが大変だった。(女)

n. スカイツリーにインタビューをしに行った[のが苦労した]。観光客が多く、係の人たちに質問を流されてしまい、なかなか答えてもらえなかった。(男)

o. 3学期はインタビューをしました。見知らぬ外国人に声をかけ、質問をすることはとても大変でした。英語でコミュニケーションをとることは普段ないので、とても良い経験になりました。(女)

上記の記述からは、伝える相手を意識して内容を吟味することの重要性に気づき(c j k)、討論や電話でのコミュニケーションなど特定の言語活動の特質(d e g)、インタビューや討論の進め方(a h)などを考察している様子がうかがえる。また評価の活動の優先度は低かったが、他者の発表を聞くことによって、考えを広げたり自らの発表の改善に生かしたりしている者もいる(f l)。さらに、実際に見たり確かめたりすることの重要性に言及する記述もあった。インタビューを行って直接会うことの大切さに気づき(b)、インターネットの情報を無自覚に使うことへの反省が見られた(i m)。「CD」の調査では実際にインタビューを行った者もいた(n o)。

他に「産社」では、長い文章を書けるようになった、他のクラスをよく知らない人とも話し合いができるようになった等の効果の実感、話し合いの楽しさなどに触れた記述が見られた。

「CD」では、レポートの書き方や発表資料の作り方、発表の仕方について教えてほしいという記述が目立った。一方で添削されても、修正せずに同じ体裁で提出する者もいた。1学期にレポートの書き方に関する共通資料を

作成したが、その利用法や指導は担当者に任せていた。その結果、添削が入るもの、検印だけのものなど担当者によって対応が分かれてしまった。統一された事前指導と継続的な事後指導が必要であろう。

4. おわりに—総合学科における国語科の役割—

1年次科目「産社」「CD」における言語活動について明らかになったのは、以下の点である。

第一に、両科目で行われている言語活動は「国語総合」の指導事項のうち、表現領域をほぼ網羅している。また一覧表の分類によれば、「産社」の言語活動は感性・情緒、他者とのコミュニケーションの力の育成、「CD」は論理的思考力の育成に関わりが深い。

次に、「国語総合」の指導事項の「書くこと」の評価に該当する活動は、ほとんどない。特に、生徒相互による評価活動は皆無である。「産社」ではポスターや書いた文章に対して教員のコメントがあれば良いほうで、その際も内容へのコメントが中心であり、表現方法に関するフィードバックは少ない。「CD」も同様で、教員によるレポートの添削が全員受けられるわけではない。

最後に、意見を述べる力、レポート作成・発表の力が身についたと考える生徒が増える一方、レポートや発表の方法についての指導を求める声もある。共通のマニュアルや活動の手引きを作るなど、配慮はしているが不十分と考える者が少なくない。

上記の点から、教科「産業」で行う言語活動を「国語総合」と関連させることで相乗効果が得られると考えられる。国語教育では「実の場」をいかに成立させるかが問われるが、教科「産業」では明確な目的の下で言語活動がなされる。よって「産業」のある単元で必要になる言語知識や技能を、同時期に「国語総合」の授業で指導すれば、生徒の関心や学習意欲も増し、双方の効果が上がるのではないかと。

特に、レポートの書き方等の論理的表現に関する指導は「国語総合」で統一して行うのが効果的である。言語活動の充実が提唱された新教育課程の教科書では、「言語活動編」「表現の窓」等として様々な表現の特徴や方法が掲載されており、教材として利用できる。本校で唯一の国語科必修科目である「国語総合」では、現代文や古典の読解に止まるのではなく、内容を精選して表現の学習をカリキュラムに位置づける必要がある。その際は、発表に関する活動が多い情報科とも連携を図るべきであろう。

また評価の活動についても、「産社」や「CD」で作成

した文章やレポート、話し合いの記録等を使って、国語の授業で交流やふりかえりを行うことができる。つまり、自らの言語活動をメタ認知する活動を国語科で行うのである。沢田紀之は「学びの原動力ともいえるメタ認知的知識をもたらすには、指導者が的確にフィードバック情報を提供し、自己肯定的なメタ認知的知識を多く持たせることが鍵となる」と述べている⁽⁷⁾。言語活動に関する的確なフィードバック情報の提供は、国語科教員が行うべきものであろう。

今回は1年次の「産社」「CD」における言語活動のみを取り上げた。他教科の2・3年次科目や「卒業研究」で求められる言語活動の特徴や指導の実態についても同様に調査することで、本校で必要となることばの力や、国語科で育成すべき力、国語科のあるべき姿がより明確になるであろう。また本校独自の言語能力表や評価規準が作成できれば、教科「産業」を担当する全ての教員による評価がより客観的かつ容易になりうる。すべて今後の課題としたい。

【注】

- (1)筑波大学附属坂戸高等学校 編 (2012)『新時代の総合学科—総合学科パイオニアに学ぶ基本理念と新たな可能性—』学事出版 pp.35~36.
- (2)田中孝一 (2008.5)「他教科に生かす国語力」『月刊国語教育 2008年5月号別冊 国語科指導開発事典』東京法令出版 p.27
- (3)詳細は、本紀要 pp.1~12 を参照のこと。
- (4)詳細は、同上書(1)pp.36~39 を参照のこと。
- (5)平成24年度は「学びの基礎を確立する」「学びの楽しさを知る」「学びの成果を発信する」である。詳細は本校の『研究紀要』第50集 pp.9~18 を参照のこと。
- (6)詳細は、本紀要 p.18 を参照のこと。
- (7)沢田紀之 (2000.12)「メタ認知の能力を高める学びの構築を」日本国語教育学会編『月刊国語教育研究』No.344 p.37

【参考文献】

- ・桑原隆 編 (2008)『新しい時代のリテラシー教育』黎明書房
- ・日本国語教育学会 編 (2011.7)『月刊国語教育研究』No.471「特集 他教科に生きる国語科の言語活動」
- ・日本国語教育学会 編 (2013.8)『月刊国語教育研究』No.496「特集 論理的思考力の発達と言語活動」

【資料①】平成25年度「産業社会と人間」年間計画

	No	月	日	主題	単元	各時限の内容	
						5時限	6時限
一 学 期	0	4	10-13	自然体験を通して出会いを考える	オリエンテーション	コミュニケーションキャンプ	
	1	4	19	生物の育成を通じて命を考える	オリエンテーション	産社全体オリエンテーション	菜園オリエンテーション
	2	4	26	生物の育成を通じて命を考える	菜園作り・プロジェクト	菜園づくり(定植等)	プロジェクト学習導入
	3	5	10	社会の中での出会いを考える	社会理解	プロジェクト学習①(社会を知る)	
	4	5	11(土)	生物の育成を通じて命を考える	菜園作り	菜園作り (4限CD終了後)	
	5	5	24	社会の中での出会いを考える	社会理解	プロジェクト学習②(社会を知る)	
	6	5	30(木)	生物の育成を通じて命を考える	菜園作り	菜園作り(追肥と管理)	
	7	5	31	社会の中での出会いを考える	社会理解	プロジェクト学習③(社会を知る)	
	8	6	7	職業を知る、働くことを考える	職業理解	仕事発見ガイダンス	
	9	6	14	カリキュラムを知る	科目選択	科目群ガイダンス①	
	10	6	21	カリキュラムを知る	科目選択	科目群ガイダンス②	
	11	6	28	カリキュラムを知る/職業を知る、働くことを考える	科目選択	科目選択予備調査入力	職場体験準備(班別)
	12	7	12	学習内容を振り返る	まとめ	一学期まとめ&収穫祭準備(am)	
	13	7	13	生物の育成を通じて命を考える	菜園作り	菜園収穫祭(保護者と一緒に)	
14	7	16	職業を知る、働くことを考える	職業理解	職場体験事前指導(全体) 社会人講話(am)	菜園片付け(産社係pm)	
二 学 期	1	夏期休業中		職業を知る、働くことを考える	職業理解	職場体験	
	2	夏期休業中		職業を知る、働くことを考える	職業理解	職場体験振り返り	
	3	9	6	学問と進路を考える	科目選択	学問と職業ガイダンス	
	4	9	13	学問と進路を考える	進路学習	大学の先生による出張講義	
	5	9	19	社会を知る	社会理解	福祉講話	
	6	9	27	学問と進路を考える	進路学習	筑波大見学事前ガイダンス	
	7	10	4	社会を知る	社会理解	特別支援学校交流会準備	
	8	10	11	世界を知る	校外学習	校外学習説明会	
	9	10	18	学問と進路を考える	進路学習	筑波大見学	
	10	10	25	学問と進路を考える・自己と出会う	進路学習・自己理解	筑波大見学まとめ	プロジェクト2nd①
	11	11	1	自己と出会う	自己理解	プロジェクト2nd②(自分を知る)	
	12	11	8	自己と出会う	自己理解	プロジェクト2rd③(自分を知る)	
	13	11	22	学問と進路を考える	科目選択	時間割作成&相談会	2学期振り返り
三 学 期	1	12	6	カリキュラムを考える/他者との出会いを考える	科目選択・他者理解	授業時間割入力	ライフプランガイダンス
	2	12	13	他者との出会いを考える	他者理解	プロジェクト3rd②(他者を知る)	
	3	12	14	他者との出会いを考える	他者理解	教員免許講習 プロジェクト3rd③(他者を知る)	
	4	1	10	自己の生き方を考える	自己理解	ライフプランHR発表①	
	5	1	24	自己の生き方を考える	自己理解	ライフプランHR発表②	
	6	1	31	自己を知り、他者を知る	まとめと発表	ライフプラン年次発表	
	7	2	7	社会を知る	講演	元文化放送アナウンサー講演会	
	8	2	14	学習内容をまとめる	まとめと発表	研究大会準備&リハーサル	
	9	2	19	学習内容をまとめる	まとめと発表	研究大会発表会前日準備	
	10	2	20	学習内容をまとめる	まとめと発表	研究大会	
	11	2	28	1年間の授業内容を振り返る	まとめと発表	産社の振り返り	

【資料②】平成25年度「キャリアデザイン」年間計画

1学期「調査の基礎を知る」						
No	日付	時間	項目	活動内容	指導事項等	
1	4月20日	1	R-CAP実施	自分を知る		
		2	科目ガイダンス	科目の目標と内容、担当者紹介		
		3	科目ガイダンス	希望調査、興味・関心・疑問点を書いてみる		
2	5月11日	1	班のアイスブレイク	自己紹介、班でのガイダンス	テーマ設定等に関して班の方針を決める	
		2	テーマを考える	興味・疑問点からテーマの候補を考える	【1学期の学習項目例】	
		3	テーマを考える			
3	5月25日	1	複数の資料で調べる	関連する本を読む、Webで調べる		アイデアの出し方(BS・マップ) 情報収集の方法 フィールドワーク、観察の方法 依頼の方法 情報の整理・保存の方法 情報の取捨選択・まとめの方法 引用のルール 複数資料の比較・考察
		2	複数の資料で調べる			
		3	複数の資料で調べる			
4	6月8日	1	複数の資料で調べる	1学期に調べた内容をまとめる (1200字程度)	アイデアの出し方(BS・マップ) 情報収集の方法 フィールドワーク、観察の方法 依頼の方法 情報の整理・保存の方法 情報の取捨選択・まとめの方法 引用のルール 複数資料の比較・考察	
		2	複数の資料で調べる			
		3	調査報告書の作成に向けて			
5	6月22日	1	調査報告書の作成	1学期に調べた内容をまとめる (1200字程度)		
		2	調査報告書の作成			
		3	調査報告書の作成			
6・7	7月11日	終日	上級学校バス見学会	上級学校を訪問し、進路意識の向上をはかる		
8	7月12日	PM	筑波大学工学情報系・講義	大学の先生や学生の講話を聞き、視野を広げる		
9・10	夏季休業中	終日	オープンキャンパス、受験科目調査	行き先の決定から受験の方法まで自分で調べる		
2学期「レポートにまとめる、発表する」						
No	日付	時間	項目	活動内容	指導事項等	
11	9月7日	AM	ベネッセテスト	学力や弱点を把握し、今後の学習計画に役立てる	*夏休みの活動報告 *2学期は適宜、科目選択の相談に応じる。	
12	9月14日	1	テーマを決める	レポート(発表資料)の構成を考える	【2学期の学習項目例】	
		2	テーマを決める			
		3	テーマを決める			
13	10月12日	1	調査・発表資料作成	発表会に向けて調査を行いながら資料を作る (締切10/18)	レポートの体裁を知る 引用と意見の区別(出典の明示) わかりやすい発表資料の条件 発表に必要な条件	
		2	調査・発表資料作成			
		3	調査・発表資料作成			
14	10月26日	1	発表会	発表に慣れる、マナーを身につける 聞くだけでなく疑問・意見を持つ	レポートの体裁を知る 引用と意見の区別(出典の明示) わかりやすい発表資料の条件 発表に必要な条件	
		2	発表会			
		3	発表会			
15	11月16日	1	レポート作成	今までの調査や発表資料を元にレポートを作成する (2000字程度。締切11/20)	レポートの体裁を知る 引用と意見の区別(出典の明示) わかりやすい発表資料の条件 発表に必要な条件	
		2	レポート作成			
		3	レポート提出			
3学期「他者に伝える、意見を言い合う」						
No	日付	時間	項目	活動内容	指導事項等	
16	11月30日	1	新しい班の顔合わせ	自己紹介を兼ねたレポート報告会	*3学期の発表はレポートや原稿の読み上げにならないように。 *3学期は時間が少ないので冬休みを活用するなど計画的に。	
		2	発表資料作成	発表資料の構成を考える		
		3	発表資料作成	2学期のレポートを元に資料を修正する(締切1/9)		
17	1月11日	1	発表会	2学期より良い発表を心がける それぞれの発表について討議する	*討議の時間を多く取る。発表は記録より感想・意見交換を重視。	
		2	発表会			
		3	発表会			
18	1月25日	1	レポート修正	発表会のアドバイスを元に修正する (2000字以上。締切1/29)	発表資料の構成を考える	
		2	レポート提出			
		3	キャリアデザインふりかえり			成果と課題、アンケート
19	2月1日	AM	進研模試	学力や弱点を把握し、今後の学習計画に役立てる		
20	2月15日	AM	卒業生と語る会	先輩の話聞き、今後の高校生活に活かす		

【資料③】言語力育成に関する整理用一覧表（修正案：見出し版。文部科学省HPより）

	国語	論理的思考力の育成にかかわる教科等	感性・情緒、他者とのコミュニケーションの力の育成にかかわる教科等
	○各教科の基礎となる言語に関する基礎的な知識・技能・能力の形成（言語運用法に関する指導の充実）	○国語科で形成された知識・技能・能力を活用する活動 +教科等固有の表現形式の習得と活用	○国語科で形成された知識・技能・能力を活用する活動 +教科等固有の表現形式の習得と活用
感受・表現	●音読・暗唱などの技能 ●感性・情緒と関連した表現・修辞を理解する技能 ●喜怒哀楽などの感情を、言葉とともに身体などを使って表現する技能 ●古典文学作品とおした伝統や文化的背景に関する知識		●体験から感じ取ったことを歌や絵、身体表現など様々な表現様式を用いて表現する活動 ●非言語の活動を含めて、言語力を総動員して意思疎通する活動 ●自己表現や、言語・コミュニケーションの感覚を養う活動 ●日本語の特性に気づき、日本文化について発信する活動
理解・伝達	●事実と意見を区別して説明する技能 ●漢字、語彙、文法などを適切に使う技能 ●記録、描写など事実を正確に伝える技能 ●レジュメ、物語のあらすじなど、情報を要約して伝える技能	●視点を明確にして、事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する活動	●3-1分間スピーチ、ショー・アンド・テルなど事実を正確に説明・報告する活動 ●問われたことを受け止めて、それに対して明確に答え（と理由）を述べる活動
解釈・説明	●抽象的な用語の意味を理解して説明する技能 ●視点を変えたり他の事象と関連付けたりして、多面的・多角的に物事を見て、的確に分析する技能 ●文章の中の情報に基づき、根拠を持って、筆者の意図を分析し、解釈して説明する技能 ●相手・目的・場面に応じて適切に説明する技能	●事象を比較する、分類する、関連付けるなどにより、事象間の関係を説明する活動 ●視点を変えたり他の事象と関連付けたりして、多面的・多角的に物事を分析し、解釈して説明する活動 ●文章や図表、数式などから様々な性質の情報を的確に読み取り、これらを用いて説明する活動 ●各教科の基本概念や法則などの意味を理解し、実生活や実社会での具体的な事象に当てはめて説明する活動	●視点を変えて、相手の立場、第三者の立場に立って公正さを判断して説明する活動 ●芸術表現から解釈した内容を文章で表現する活動
評価・論述	●結論を示した上で、その判断の基礎となる考え方を根拠を持って説明する技能 ●文章の形式や内容について、既得の知識や自らの経験などに照らして評価を行った上で論述する技能 ●複数の媒体やテキスト等を活用して、媒体の特性を踏まえて情報を評価する技能	●筋道を立てて説明する活動 ●帰納的な考え方、演繹的な考え方などを活用して説明する活動 ●一つ一つの事象について、様々な媒体による様々な主張を読み比べて、既得の知識などに照らして評価を行った上で論述する活動 ●仮説・予想→実験観察・実験・資料活用→文章や図表などで結果を整理し、考察し工夫改善する活動	●体験活動を振り返り、そこから学んだことを記述する活動 ●体験から実感したこと、考えたことを基に、自らの生き方を考え、詩や文章などにまとめる活動 ●構想→創作→文章などで結果を評価し、工夫改善する活動
討論・協同	●討論、議論などを通して、建設的な合意形成を目指した言語活動をする技能	●観察・実験・調査→実験などにおいて、仮説・予想の設定、結果の検証、結果の解釈などの場面で、討論しながら考えを深めあう活動 ●課題追究において、まずは既得の知識や自らの経験に基づいて考え判断させ、その上で他者の意見や資料を活用して考えを深めさせることで、議論の深まりを実感させる活動 ●創作活動、未来予測などの正解が一つでない課題や答えに至る道筋が複数ある課題を討論し答えを導き出す活動	●討論、議論などを通して、意見の異なる人と協同的に議論する態度や、意見の対立を解決する方法を身に付けるのに必要なさせる活動

【資料④】プロジェクト学習②のワークシート（原版はA3版）

2013.11.5 産業社会と人間 MISSION.4 組 番 名前

街で100人に聞きました『人はなぜ生きるのですか？』

ディスカッション&発表会 第1班

① 最初に考えた「生きる」は？（事前課題①で書いた考えを発表しましょう）(02-1325-1330分)

- ・よく食べ、よく寝て、毎日楽しく暮らすこと。
- ・人々優しく暮らすこと、何かを期す暮らすこと。
- ・明日も後明日も生きてるために暮らすこと。
- ・人を愛したり、恨んだり暮らすこと、死ぬ向き、これらすること。

② インタビュー意見の中で印象的なものや、またその理由は何か話し合ってみよう。(02-1330-1345分)

- インタビューの意見
- ・自分の子供と立派な大人になること。
 - ・何かを成すこと、長く生きること。
 - ・健康第一
 - ・健康で、70まで生きて暮らすことが生きること。
 - ・生きる、という目的は無い、死が来たら死ぬまで暮らすこと。
- 印象に残ったこと。
- ・自分のことばかりでなく、家族や子どもが幸せになること。
 - ・子供が大人になるまで待つこと。
 - ・健康で、70まで生きることが、生きること、それが目的で生きていく人がいる。
 - ・生きることに目的はない。
 - ・何かを成す、あるいは暮らす。

③ ①、②を踏まえ「生きる」ということについてみんなで話し合ってみよう。(02-1345-1415分)
(インタビューする前と後の考えの変化・インタビュー意見の分類・他の人の意見を聞いて思ったことなど)

① ②を踏まえ「生きる」ということについてみんなで話し合ってみよう。(02-1345-1415分)
(インタビューする前と後の考えの変化・インタビュー意見の分類・他の人の意見を聞いて思ったことなど)

- ・他の人の意見を聞いて、正直な自分の考えは変わらなかった。
- ・これ、それは、人の生きがいの人それぞれ違うから、お互い前のことではないと思った。
- ・生きる、とあるが、生きるということが何かあるから、生きられる人ではない。

インタビュー意見の分類

とあるが、これは、人は人それぞれと生きていくから、だから、人はそれぞれ違うから、生きるということから、前からの意識が異なる。人はそれぞれ違うから、生きる。

④ 発表する内容を考えよう。(02-1415-1425分)

- 1 インタビューで印象に残ったこと。
- 新しい材料でできた答えの答えは面白いと思った。それと、おもしろい家族が、周りの人たちに、生きられる人が多ければいい。
- 2 「生きる」とは？について話し合った内容や感想
- 人は、人それぞれと生きていくから、だから、人はそれぞれ違うから、生きる。

【資料⑤】 継続アンケートの質問項目と結果

質問項目は以下の通りである。[1人に言われてでなく、自分で考え、判断することができた。2自分で決めたことを行動に移すことができた。3一度決めたら最後までやり遂げようと努力した。4他の人と協力し、助け合って活動することができた。5他の人の意見や考えを理解し、尊重することができた。6自分の意見や考えを他の人に伝えることができた。7身の回りや社会・世界に興味や疑問を持つことができた。8興味があることについて、本を読んだり自分で調べたりできた。9興味があることについて、いろいろな人に話を聞いたり校外に出かけたりできた。10様々な角度から物事を考え、自分なりに課題(問題点)を見つけることができた。11必要な情報を探し集め、自分なりに分析することができた。12伝えたいことをわかりやすく(論理的に)文章にまとめることができた。13伝えたいことをわかりやすく(論理的に)発表することができた。14家庭学習や課題への取り組みなど、ものごとを計画的に進めることができた。15将来の夢や方向性を考えることができた。]

1学期																
	4・3回答	授業	キャンプ	菜園	PJ①	仕事G	科目選択	CD	HR	部活動	その他	学校外				
1	121	6	54	45	34	19	39	45	14	45	4	7				
2	117	8	47	36	32	21	32	41	10	49	3	13				
3	129	10	43	44	28	14	25	48	9	54	5	12				
4	136	6	107	86	64	15	14	24	17	57	1	4				
5	128	17	76	34	52	15	15	27	22	36	3	4				
6	97	15	64	30	39	13	13	27	15	30	2	6				
7	113	7	30	20	31	58	36	45	7	19	6	7				
8	106	8	3	5	9	15	16	76	2	17	4	8				
9	79	6	9	7	21	18	12	23	2	13	2	3				
10	80	20	21	15	17	11	15	32	4	27	0	5				
11	107	7	10	9	17	14	16	80	4	6	1	6				
12	75	8	8	9	13	5	4	66	0	1	0	1				
13	46	8	17	12	23	7	1	22	0	1	1	0				
14	41	8	3	6	5	5	7	18	2	2	5	7				
15	132	7	7	11	18	92	66	39	2	11	6	9				
2学期																
	4・3回答	授業	職場体験	職業G	出張講義	福祉交流	筑波大	PJ②	科目選択	CD	進路講話	HR	部活動	その他	学校外	
1	118	11	40	24	14	34	27	33	44	45	10	47	36	1	5	
2	114	10	29	12	4	22	26	24	29	48	3	41	38	1	5	
3	122	14	30	7	3	23	8	18	21	43	1	50	46	0	8	
4	130	9	55	16	5	54	34	54	6	22	3	83	49	0	1	
5	135	10	31	11	6	41	22	60	12	43	3	53	34	0	7	
6	105	6	19	7	5	24	10	49	11	48	4	30	26	1	5	
7	124	12	58	36	22	43	53	61	30	46	16	14	17	2	4	
8	113	9	8	7	2	4	8	5	15	86	7	6	13	4	9	
9	82	5	18	7	4	13	8	21	25	29	3	8	15	2	4	
10	106	16	18	17	3	17	11	26	26	49	8	16	34	1	2	
11	130	14	10	9	5	10	12	23	22	98	2	10	6	1	2	
12	91	12	10	3	4	12	6	29	6	73	2	1	1	2	0	
13	77	5	9	4	2	3	1	18	1	67	1	1	3	0	0	
14	46	13	1	0	0	2	0	3	6	17	0	2	4	7	9	
15	139	7	43	48	19	26	42	26	77	44	33	6	16	1	12	
3学期																
	4・3回答	授業	PJ③	LP	講演会	研究大会	CD	HR	部活動	その他	学校外					
1	112	8	53	50	4	39	51	12	38	0	2					
2	111	8	24	41	5	29	45	10	42	2	8					
3	131	17	26	47	4	37	57	14	51	0	6					
4	130	16	64	28	5	65	14	24	57	5	5					
5	125	5	83	52	19	61	25	14	23	3	5					
6	109	6	74	51	6	41	41	6	18	1	3					
7	109	6	46	42	45	35	42	5	15	4	4					
8	99	10	9	13	3	7	76	0	10	4	7					
9	56	5	11	9	8	7	30	6	14	6	5					
10	102	10	32	32	6	20	50	3	32	1	6					
11	113	11	11	21	6	13	91	3	8	2	3					
12	94	10	16	54	4	25	62	5	3	1	1					
13	87	3	24	40	3	14	61	1	2	1	2					
14	62	19	7	12	1	8	27	0	8	4	9					
15	134	5	12	93	23	21	51	6	19	3	11					